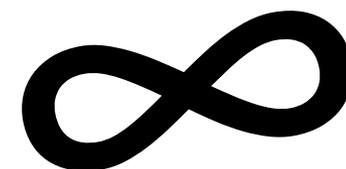


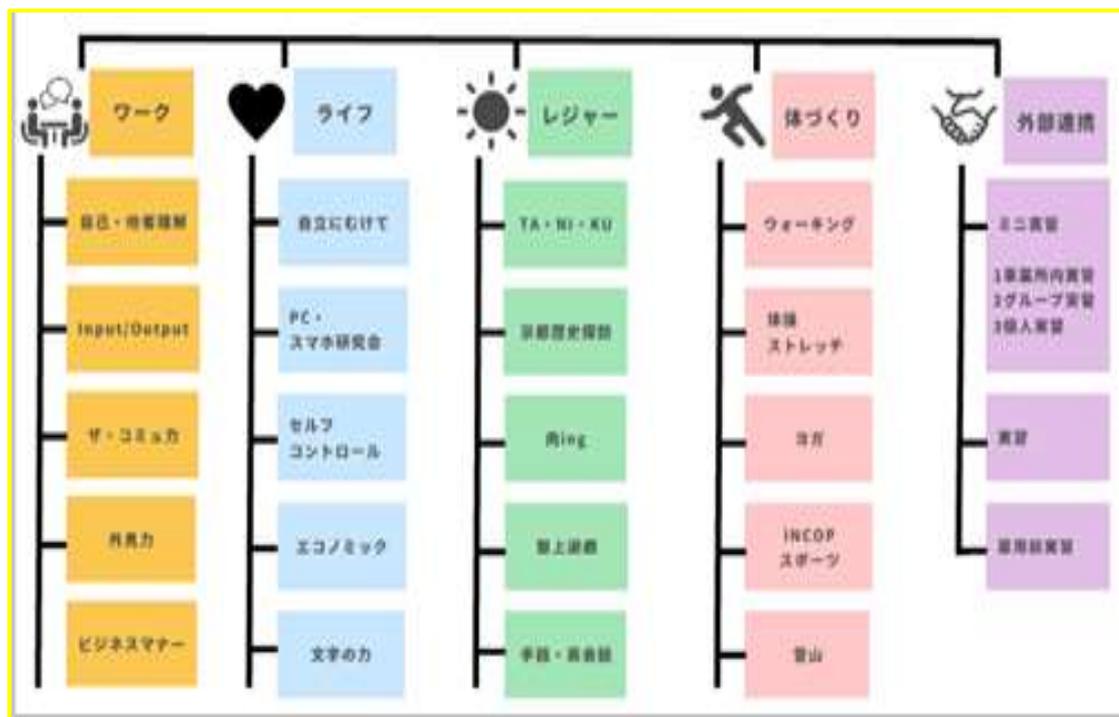
障害者 × スポーツ体験 = 無限大  
～ スポーツから広げる多様性文化の創造～



○井上 渉(就労移行支援事業所INCOP京都九条 代表)

# 就労移行支援事業所INCOP京都九条

- 2023年2月に開所
- 社訓「やってみよう！」
- 「ミニ実習」が大きな軸の「超実践型トレーニング」
- 就労だけでなく「WorkとLifeのINCOP」



## チームとの連携

### SHIMADZU Breakers (トップウエストAリーグ所属)

株式会社島津製作所とは、私が特別支援学校勤務時からつながりがあり、実習、雇用と連携していた。また、島津製作所が主催した障害者向けのテニス教室実施でも連携をしていた。

“Breakers”のニーズ	“INCOP”のニーズ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選手が試合に集中したい</li> <li>・ ホームゲームの運営を充実したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の体験の場を増やしたい</li> <li>・ スポーツで見識を広げたい</li> </ul>

“Breakers”と“INCOP”のニーズを組み合わせ、まずは、ホームゲームの準備、片付け、また試合中の選手の水分の補充といった試合中のサポートを“INCOP”とともにやってみようとスタートした。

## チームとの連携

### SHIMADZU Breakers (トッポウエストAリーグ所属)

- 回数を重ねることでチームとの信頼関係ができる  
→ 任される内容も増えた
- うまくサポートをするために利用者同士で話し合う場面も  
→ 話し合った工夫をチームに伝え、共有し環境改善
- 「レッズ」としてチームの一員として位置づけ  
→ 利用者の帰属意識を高め、誇りを感じている方も  
→ 一層の自己効力感を得ることに
- チームを「支える人」そして「応援する人」に  
「成長していく」

## チームとの連携

### 京都ハンナリーズ

### (B.LEAGUE所属プロバスケットボールチーム)

- 2024-2025年シーズンから京都ハンナリーズのホームゲームのボランティアとして活動
- 他のボランティアの方々も活動しながら、一員として会場準備片付け、会場の座席案内や再入場対応等を担う
- 他のボランティアさんとの協働となり、一層の連携や報告連絡相談といった働くうえで必要なことが求められる機会が多い

## チームとの連携

### 京都ハンナリーズ

#### (B.LEAGUE所属プロバスケットボールチーム)

- プロスポーツということもあり、チームのファンと接する機会も多く、おもてなしをし、人と接する経験を積む機会に
- 京都の色々な場面でハンナリーズの名を目にする機会があり、「チームのチラシや広告を見ると誇らしいんです」という利用者の言葉に裏打ちされているように自己効力感を高めることにつながっている
- さらには、「働きだしたら自分でチケットを買って応援に行きます！」と余暇の拡大、働くモチベーションにもつながっている

## 各種スポーツ大会への参加

- 各種のスポーツ大会へ積極的に参加
- 陸上大会やボッチャ、卓球、卓球バレーなどの競技にINCOPからチームや個人で出場
- これらの大会には、INCOPの在籍中の利用者だけでなくINCOPを利用し就労して働いている元利用者にも声をかけ参加している

## 各種スポーツ大会への参加

- 利用者が、いま運動機会を確保する、だけでなく  
→ 就労している元利用者が、一緒に参加することで以下の効果がある
- ①働きながら余暇を充実する場の提供
- ②働きながら運動する姿のモデルを利用者が学ぶ機会
- ③アフターケア
- 特にアフターケアについては、スポーツを一緒にやりながら、であればさらに何気ないことまで話しやすい雰囲気になる
- そもそも「われわれは皆さんを支えていますよ」ということが会うことでより伝わったり、何かあった時に頼ってもらいやすくなったりしている

## 地域スポーツ大会でのボランティア

- 2024年、2025年の京都マラソンのボランティアにも参加
- 選手配布物の帳合やランナーの受付、当日は給水所の設営、運営等を担う
- 地域での大きなイベントで役割を担って活躍し、ランナーにも「ありがとう」と言ってもらい、そのことが利用者の「地域の役に立っている」という自己効力感につながっている
- 滋賀県で行われる「わたSHIGA輝く 国スポ・障スポ2025」においてもボランティア活動を実施
- 障スポにおいて当事者として障害者スポーツを支える経験

スポーツを通して「プレーする人」「支える人」  
「応援する人」が  
障害を越えて連携し、勝利を目指し、共有していく

## 「多様性文化の創造」

スポーツ体験には、この文化を色々な場所に広げて、  
大きくしていく力や可能性がある

我々は今後もスポーツの持つ無限の可能性を信じ、  
様々な場所でスポーツを通じた障害理解に努めていく